

## 国際バカロレアについて

### 1 国際バカロレア（IB）とは

国際バカロレア機構（本部ジュネーブ）が提供する国際的な教育プログラムで、元々は、世界各国の外交官や国際機関職員などの家庭の子供たちがインターナショナルスクールを卒業した後、母国の大学に進学するための入学資格を付与する目的として1968年に設置された。

世界約160の国・地域の約5,600校、日本国内では、小中高241校で実施されている。  
（そのうち、国公立学校は17校） （令和6年3月時点）

#### 主な教育プログラム

プログラム名	対象年齢	カリキュラムの特色
プライマリー・イヤーズ・プログラム(PYP)	3～12歳	日本語でも実施可能
ミドル・イヤーズ・プログラム(MYP)	11～16歳	日本語でも実施可能
ディプロマ・プログラム(DP)	16～19歳	・原則、英語、フランス語又はスペイン語で実施 一部の科目は日本語でも実施可能(日本語DP) ・国際的に認められる <b>大学入学資格（国際バカロレア資格）</b> が取得可能

※ 日本では、7～12歳が小学校、13～15歳が中学校、16～18歳が高等学校にあたる

### 2 国際バカロレアプログラム（IB）の教育内容

IBにおいて育成される 資質・能力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 探究スキル、課題発見・解決能力、コミュニケーション能力などを育成</li> <li>・ 国際的な視野を持ち、将来の社会課題に対応するグローバル人材を育成</li> </ul>
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必修科目（コア） 課題論文， 知の理論， 創造性・活動・奉仕</li> <li>・ 教科（グループ1～6から1科目選択） 1 言語と文学， 2 言語習得， 3 個人と社会， 4 理科， 5 数学， 6 芸術</li> </ul>

### 3 文部科学省における国際バカロレアの推進

文部科学省においても、国際バカロレア教育については推進しており、日本語DPの導入や、高等学校学習指導要領における各教科・科目との読替を示す、推進のためのコンソーシアムの設立などを行っている。

### 4 国際バカロレアと学習指導要領の関係

探究スキル、課題解決能力やコミュニケーション能力等の育成を目指すことや、グローバル人材の育成、また、学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」とは共通点が多い。

ただし、1条校<sup>\*</sup>でIBを導入した場合、DPの科目と日本の学習指導要領の教科・科目の両方を履修する必要があるため、生徒の負担が大きい（読替可能な科目有り）。また、日本語DPも実施可能ではあるものの、全ての科目が日本語で実施できるわけではないため、生徒、教員双方に相応の英語力が必要とされる。

※1条校… 学校教育法（昭和22年法律第26号）の第1条に掲げられている教育施設  
幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、  
特別支援学校、大学、高等専門学校のこと。

### 5 北九州市における具体的な取組みについて

#### (1) 探究スキルや課題解決能力の育成について

- ◆「探究的な学び」＝多様な他者と協働して、主体的に課題を解決しようとする学び
- ◆「社会の変化を乗り越える力」を育むための手だての一つとして「探究的な学習」に取り組む
- ◆「探究的な学び」で育つ力
  - 問題発見・解決能力 ○情報活用能力 ○言語能力 ○論理的思考
  - ・総合的な学習（探究）の時間を中心として探究的な学習を実施
  - ・各教科等においても「教師主導の授業」から「子ども主体の授業」への転換している

探究のプロセスを重視した学習

<b>課題発見</b> 紫川の生き物について調べる 	<b>情報の収集</b> 上流・中流・下流の水質調査 	<b>整理・分析</b> 話し合いながら過装置を作って実験 	<b>まとめ・表現</b> 地域の会議で解決策を発信 
--	---	---	---

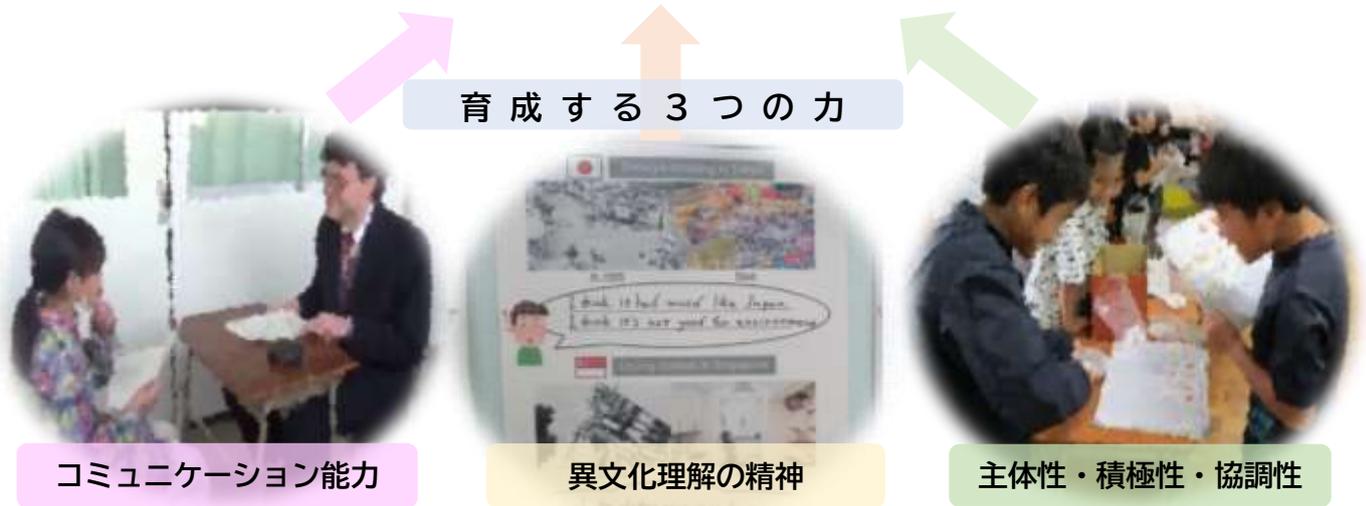
- ・探究的な学習の意義や取組み方を周知、先進的に取り組んでいる学校の実践等を共有、教員の資質向上と授業改善を図るなどの目的のために教職員の研修を実施している。

## (2) コミュニケーション能力の育成やグローバル人材の育成について

「グローバル社会で活躍し、世界と北九州市の架け橋となる人材の育成」を目指し、小・中学校9年間を通した「北九州市型外国語教育」を推進する。

### ■目指す子ども像

北九州市に誇りを持ち、(英語で)自分の考えや気持ちを積極的に伝えることができ、学び続ける子ども



### ○具体的な取組内容

- ◆小・中9年間を見通したカリキュラムを作成し、発信力を重視した外国語授業を実施
- ◆小中連携・接続等を意識した外国語授業や学校行事の実施
- ◆教員の指導力向上のための研修の実施

### ○展開のスケジュール

令和6年度 外国語教育リーディングスクール（小4校・中3校）において先行実施  
令和7年度 全市立小中学校で開始

## 6 国際バカロレアを北九州市で採用する場合課題となること

- (1) プログラム認定校の資格の維持、教員の研修等に継続的な経費負担が発生する。また、教員側には通常の授業とは異なった教材研究が必要になる。
- (2) 教科書代、試験の受験料、登録料など生徒保護者への金銭的負担が発生する。
- (3) 課題の量、質ともにボリュームが大きいため、生徒の学習に負担がある。
- (4) ディプロマ・プログラムは原則英語で行う必要があり、指導できる教員の確保は容易ではない。

### <現在の方針>

国内の認定校の実施状況を参考にするなど、研究を継続する。